

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	新潟大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	ニイガタダイガク
	大学等名1(代表大学等)学校所在地	中部地方(愛知県を除く)
	大学等名1(代表大学等)学校種別	国立大学
	大学等名2(連携大学等)	
	大学等名2(連携大学等)学校所在地	
	大学等名2(連携大学等)学校種別	
	科目名	キャリアデザイン・インターンシップ1
	学部・研究科等名	工学部工学科協創経営プログラム
	担当教職員名・役職	小浦方 格・准教授 ほか
	受講者数(H29年度実績)※インターンシップ参加者数	69
	受入企業等数	43
受入企業等名	一般社団法人つばめいと、CEC新潟情報サービス株式会社、hakkai株式会社、アーコニック・ジャパン株式会社、小柳建設株式会社、株式会社ウイング、株式会社エビス、株式会社大原鉄工所、株式会社北村製作所、株式会社シアンス、株式会社ジオックス、株式会社真友社、株式会社シンワ歯研、株式会社南雲製作所、株式会社テック長沢、株式会社テレビ新潟放送網、株式会社とまつ衣裳店、株式会社ナカノアイシステム、株式会社ミツワ、株式会社柳都入船、キヤノンイメージングシステムズ株式会社、シマト工業株式会社、シンワ測定株式会社、大和不動産株式会社、ツインバード工業株式会社、ミズホ株式会社 五泉工場、吉井国際特許事務所、遠藤工業株式会社、株式会社新越ワークス、グループホーム マナの家、ケアパートナー新潟西、ツクイ新潟五十嵐、デイサービスセンターはまゆう、デイサービスセンター有明園、はあとふるあたご デイサービス坂井東、介護老人福祉施設 ジェロントピア新潟、在宅ケアセンター ゆうばえ、在宅介護施設 梅の実、就労継続支援B型 スペースBe、障害者支援施設 第2みずほ園、新潟みずほ福祉会 みずほ園、新潟みずほ福祉会 みのり園、知的障害者入所施設 十字園	
インターンシップの分類	6.低学年(大学1年次～2年次程度)からのインターンシップ 9. 中小企業でのインターンシップ 10. 地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ	
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	地元企業と福祉施設において各2週間の就業を体験し、実際の企業等における事業の実際を知ることでの後の学内における学習に対する意欲や意義を確認するとともに、卒業後の進路に関するイメージを具体化し、科目と実務の関連性を理解する。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	2.当該インターンシップは、キャリア教育科目として実施している 3.当該インターンシップは、専門教育科目として実施している 5.当該インターンシップは、選択必修科目として実施している 7.当該インターンシップは、授業期間中に実施している
	2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	1年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	2単位
2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	工学部工学科融合領域分野所属学生の選択必修科目として、1年次第2タームに開講した。学外実習は火曜～金曜の週4日×4週間に渡って実施した。将来のキャリア形成に対する具体的なイメージを持つことと同時に、2年次以降に学習する専門科目と企業等との実務で求められるスキル等との関連性を理解することを目標とした。	
3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい	

要素③	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用法等を身に付ける授業等を行っている 2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている 3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている 4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している 5.その他
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容(記述欄)	上記1～4に加え、安全教育、図書館活用法を授業形式で行ったほか、障害者支援施設から担当者を招聘したセミナーを複数回実施した。
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている 2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている 3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している 2.インターンシップ中に、学生が定期的に大学等において教職員と面談を実施している
	3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	約1週間の事前学習期間を設定し、マナー研修、パソコン利用研修、安全学習を実施するとともに、実習先機関に関する情報を各自で調査し、その成果をレポートとしてまとめた。また、全学生出席のもとに事前学習成果発表会を実施した。
3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	計4週間のインターンシップ実施後、実習先である企業等及び福祉施設のそれぞれについて学習成果を自ら振り返り、成果としてまとめ、全学生出席のもとで成果発表を行った。その際、可能な限り実習先企業等担当者らにも出席を依頼し、学習成果に対するコメントを求めた。なお、企業等にとっては他社における実習状況や実習内容の相互理解の場としても活用するように案内した。	
3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップ期間中は週に1回、原則として全学生が出席する授業時間を確保し、小グループ単位の担当教員制により、学習状況等について確認しあつた。また、担当教員が企業等を訪問し、可能な限り学生を同席させ、企業担当者らと状況確認を実施した。	
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	事前学習と事後学習(成果発表会)の機会をとらえ、学生自らによるインターンシップ前後の変化を振り返ることができるようにした。本科目では工学的な専門知識やスキルの修得よりも、工学と社会の「つながり」を理解することが主たる目標であるため、ルーブリック等を用いた具体かつ定量的な評価は適用していない。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	2.事前・事後学習との組み合わせにより、計5日間以上の実施期間を確保している 3.複数の企業等においてインターンシップを実施することにより、計5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	35日間(うちインターンシップ実施期間16日間)
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	16日間
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容(記述欄)	
	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	1週間あたりの実施日数を原則として火～金曜日の4日間としており、1機関あたり連続して2週間のインターンシップを計2機関、合計4週間連続のインターンシップ(学外実習)実施した。
6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい	

要素⑥	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	<p>1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してインターンシッププログラムを設計している</p> <p>2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している</p> <p>3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている</p> <p>4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している</p> <p>5.企業等と協働して作成した評価シートを活用し、具体的な効果を数値化して測定している</p> <p>6.企業と協働して、PDCAを実施している</p>
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	<p>企業等は大学と相談しながら研修実施概要を作成し、その内容に従って学生を適切に指導、評価した。インターンシップ終了後、企業担当者は学生の実習状況を評価シートを作成して大学に提出し、教員は評価シートを参考にして学生の最終評価を行った。企業は最終成果発表会に出席することで他社事例を理解し、また、随時開催される企業向けインターンシップ研修会等を通じて大学と共同で次年度に向けた改善策を講じた。</p>
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	http://syllabus.niigata-u.ac.jp/syllabusHtml/2017/09/09_172T9509_ja_JP.html
問い合わせ先	大学等名	新潟大学
	担当部署名	学務部連携教育支援課
	担当者役職名	専門職員
	担当者氏名	橋本謙司
	電話番号	025-262-6309
	メールアドレス	renkekyoiku@adm.niigata-u.ac.jp